

ITER計画政府間協議及び海外の状況

第1回ITER政府間協議	1
第2回ITER政府間協議	2
ITERを巡る各国の状況	3
世界のITERサイト候補地	4

平成14年1月18日
文部科学省研究開発局

第1回 I T E R 公式政府間協議

〔11月8日、9日、カナダ・トロントにて開催〕

参加極：日本、EU、ロシア、カナダ

- ① 2002年末まで協定案を策定するための作業計画を、情勢変化に応じて柔軟に対応していくものとしつつ、確認した。
- ② 以下の点について議論を行い、今後検討を進めていくこととした。
 - ・協定の骨子
 - ・コスト分担と調達配分の考え方
 - ・サイト共同調査の進め方
- ③ 以上に必要な作業は、サブグループを設置して、政府間協議からの指示の下で具体的な作業を進め、政府間協議に対して報告する。
- ④ 次回政府間協議は2002年1月、東京で開催することとなった。

第2回政府間協議について

1. 開催日程：平成14年1月22日（火）～23日（水）

2. 開催場所：東京国際交流館（お台場）

3. 参加極：日本、欧州共同体、ロシア、カナダの4極

4. 協議予定内容：

ア) I T E R 共同実施協定に関する議論

イ) サイト共同評価の基本的考え方に関する議論

ウ) 調達配分の基本的考え方に関する議論

エ) I T E R 事業体の体制と移行措置についての議論

オ) 各極の状況（サイト提案、米国の復帰に関する状況等）等

我が国としては、参加極間の公平性を損なうことがないよう、議論を行うとともに、各極の考え方や状況を聴取する。特に欧州についてはサイト提案についての情報を収集する。

ITERを巡る各国の状況

EU

- ・フランス原子力庁（CEA）が提案したカダラッシュ・サイト（南仏、マルセイユの北約70km）について、EU内での技術的評価を終了。
- ・昨年10月30日の欧州研究相理事会で仏研究大臣がカダラッシュ・サイトを正式提案。
- ・昨年12月10日欧州研究相理事会において、欧州委員会は、欧州研究相理事会に対し、次の2点を本年早々提出することとされた。
 - ① ITER計画に関する将来的な段取りと可能性のあるサイトを視野に入れた、第6次フレームワークプログラム以降のITER計画の費用分析についての案
 - ② 1つ又はそれ以上のヨーロッパサイトを提案する交渉権拡大案
- ・スペインがサイト提案の可能性についての技術的な検討を開始。
- ・ITERの政府間交渉に際しては、サイト提案と予算のコミットを除いて協力の法的枠組みについての交渉権を持つ。

カナダ

- ・昨年6月、クラリントン（トロントの東約60km）をサイト候補地として正式提案。
- ・カナダはサイトを提案するが、連邦政府は資金拠出を行わず、カナダに誘致した際は、非ホスト国の資金でITERを運営。
- ・ITERカナダ*がITER運営母体と契約し、資金を得てITERを巡る各種の手続き等を代行。
- ・ITERの政府間交渉に際しては、以上の条件の下での交渉権を持つ。
 - * 1997年に設立された、産業界、政府、労働組織、大学が支援・参加する非営利法人

ロシア

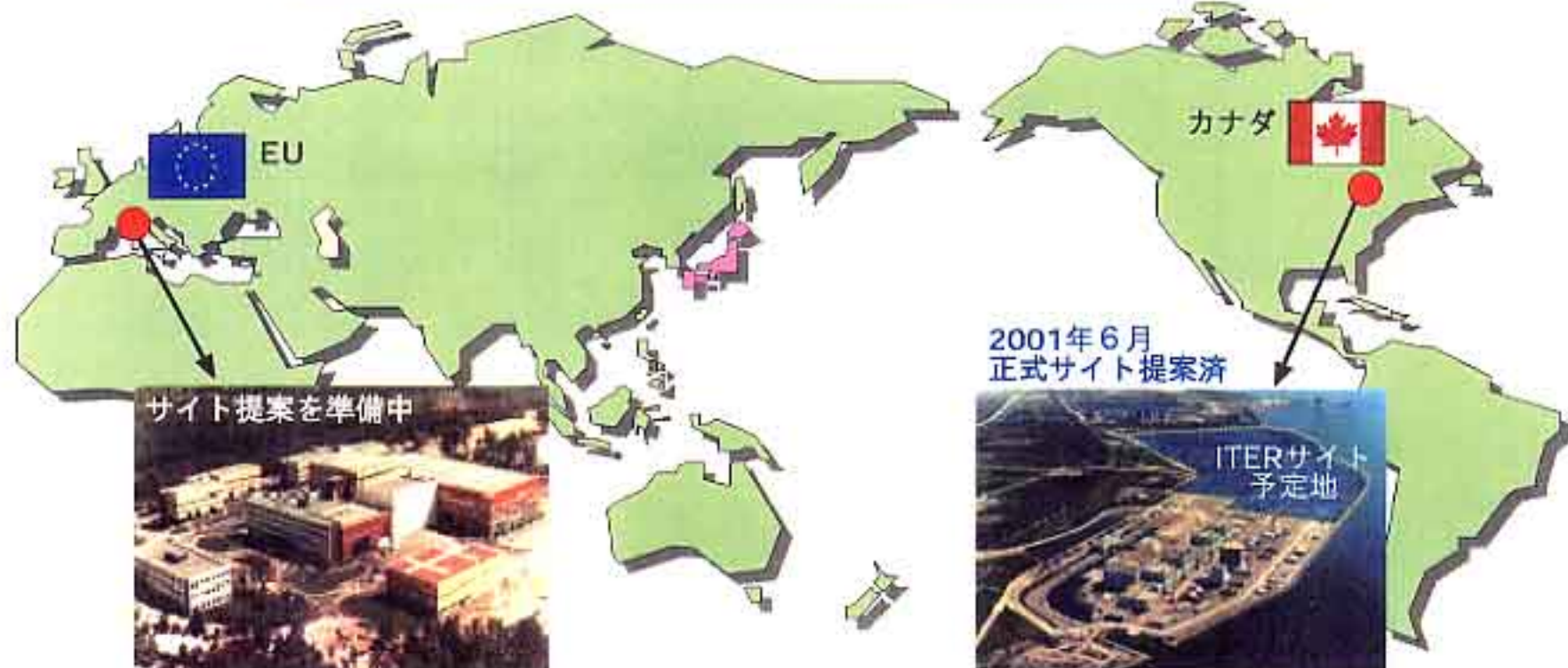
- ・ロシア国内には誘致はしないが、参加の姿勢。昨年6月にはITER計画の実績及びその将来的発展の評価を広範に紹介する「モスクワITER DAY」を開催。
- ・ITERの政府間交渉に際しては、参加についての交渉権を持つ。

※第1回政府間協議を平成13年11月8、9日にカナダ（トロント）で開催。第2回を平成14年1月22、23日に日本（東京）で開催予定。

アメリカ

- ・ITERからの撤退理由、① ITERに対して技術的な懸念があること、② いつ建設の決定が行われるのか不透明であったこと、については、工学設計活動等を通じて技術的問題が解決され、建設時期についても目処がついたと米国エネルギー省は認識。
- ・米国は、昨年5月17日に発表した国家エネルギー政策において、水素エネルギーとともに核融合エネルギーへの期待を示す。
- ・昨年9月に尾身科学技術政策担当大臣がエブラハム・エネルギー省長官と会談し、ITERへの米国の復帰を要請し、米国側が検討することを確認。
- ・昨年11月に、下院科学委員長ポラート議員（共和党）と同委員会民主党筆頭ホール議員が、ITERへの米国の早期復帰への努力を促す書簡をエブラハム・エネルギー省長官に送付するなど、米国内でITER復帰について議論が行われている。
- ・本年1月に、マーバーガー科学技術担当大統領補佐官は、尾身科学技術政策担当大臣と会談し、ITERへの米国の再参加について、米国にとって大変意義があり、前向きに検討し、早急に結論を出したい旨発言。
- ・ITERに復帰するか否かは大統領、副大統領の決断が重要。

世界のITERサイト候補地



サイト提案を準備中

カダラッシュ・サイト (フランス)

- ・ CEA敷地(1,560ha)、600haの未使用地
多くの原子力施設があり、地盤堅固
- ・ 500~700MWの受電可
- ・ 冷却水を取り込む河川、貯水池あり

- ・ エクサンプロバンス市から、40km
マルセイユ空港から70km

2001年6月
正式サイト提案済

ITERサイト
予定地

クラリントン・サイト

- ・ 既存原子力サイト(485ha)、原子力施設立地要件は満足
ITERサイトとして約240haが利用可
- ・ サイト内に原発4基(計3400MW)、500MW受電は十分可
- ・ サイトはオンタリオ湖畔、冷却水は十分
- ・ サイト内の2.5kg/年のトリチウム回収施設からトリチウム調達可能
- ・ トロント(人口450万人)から約60km、生活文化面は優良
- ・ 周辺地域は、誘致を歓迎